

(仮称)あつぎ郷土博物館 準備 NEWS 3

(仮称) あつぎ郷土博物館建設 準備報告⑨

屋根出来上がり 内部工事始まる



いよいよ屋根となる部分ができ、内部の工事が始まる(仮称)あつぎ郷土博物館の建設現場です。これから梅雨に向かいますが、屋内での工事が行えることで、天候に左右されず計画が進められることでしょう。

中津川に隣接し、自然豊かな建設地周辺ですが、厚木市では最後まで砂利採集が行われていた場所でもあります。建築資材として、横浜や東京などの都市化を支えた当地の砂利ですが、「下川入の砂利は日本一」といわれるほど上質なものであったそうです。

隣接する棚沢地区の貝殻坂からはキサゴなど300万年ほど前の貝化石(写真小)が多く掘り出されており、新博物館の展示は、厚木市域が海だった太古の昔からはじまります。今は海のない厚木ですが、市域や丹沢山中でみつかるといわれる貝化石の展示で、海だったころの厚木の姿も理解していただけます。身近な「石」からも郷土を多角的な視点で考える、そんな博物館を目指します。

会 厚木市郷土資料館

〒243-0003 厚木市寿町3-15-26

<http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/>

046-225-2515

問い合わせ先

(仮称) あつぎ郷土博物館 展示のバリエーション①

誰でもが楽しめる展示とは？



—昨年開催、「触察」講座の様子です

ハンズオン展示コーナー

ハンズオン展示コーナーとは、資料に自由にふれたり動かして楽しむことのできる展示のことです。土器やはく製にさわったり、石臼を回してみたりしてみてください。

さて、どんなことがわかるでしょうか。

資料館、20年前の展示タイトルです

郷土資料館に「ハンズオン展示」というコーナーが設置され、土器やはく製、石臼が展示されていたことをご存知でしょうか。これは、展示資料に直接触れる「触察^{しょくさつ}展示」という展示手法を導入したもので、触れたり、動かしたりすることから、教育的効果が高いと考えられています。体験展示、参加型展示とも共通、類似する性格をもち、新博物館にもこのコーナーが企画されます。

新博物館の基本方針は「人にやさしい配慮」として、ユニバーサルデザイン（以下UD）、つまり「年齢、性別、障がいの有無にかかわらず利用しやすいようにするデザイン」を取り入れることを明記しています。段差をなくしたり、点字ブロックを設置したりすることはもちろんですが、「目で見える」比重の大きい博物館施設の「展示」に関して、どのように対応ができるのでしょうか。

実は「ハンズオン展示」は「触察展示」としてUD的な効果も期待されており、「手でさわる文化」をもつ視覚障がい者への配慮ともなります。更にさわることは「じっくりと考えを深める」「発見する知的な喜び」などをもたらし、視覚障がい者だけでなく、多くの人々が楽しむことができる意味のある手法でもあります。

「だれでもが楽しめる」博物館展示つまり「UD展示」ですが、私たちはその姿を新博物館で考え、探っていかなければなりません。その価値は十分にあります。

《古民家岸邸 6月 の休館日》 *27日から7月16日まで「岸邸の七夕」開催
4(月)、5(火)、11(月)、12(火)、18(月)、19(火)、25(月)、26(火)

(仮称)

あつぎ郷土博物館 準備news3

発行日：平成30年6月1日

編集：厚木市郷土資料館

発行：厚木市教育委員会